

編集後記

耕雲庵立田英山老師は、数息觀の大切さについて次のように話しておられます。

「^{せっしん}撮心から^{しょうねん}撮心の間を^{せつねん}正念の工夫を絶やさぬために、毎日一炷^{いっちゅうこう}香を坐るということを実行してもらいたい。…（公案を工夫）するのによいことですが、何よりもまず数息觀をお勧めしたい。数息觀は最初にして最後のもので、容易に徹しがたいものである。」（『合掌』第74号）

「ここに本部の第26回^{せっしんえ}撮心会も、まあ円了しました。が、まだまだ私の理想とする撮心には程遠いのです。要は、全身これ^{ざんまい}工夫三昧の本気の^{せっしんえ}撮心会が^{ごんしゅう}厳修されねばならぬのです。いわゆる公案なぞ

はなくともよいのです。長続きさせるための余録であり、釣り糸に垂らした^{えさ}餌でしかないのです。肝心^{かなめ}要の所は、命^{いのち}がけで数息觀に励むことなのです。一生懸命数息觀をやればそれでよいのです。恥ずかしい話じゃが、わしもまだ本当に数息觀ができません。いやしくも禅者であるならば、少なくとも一日一炷^{いっちゅうこう}香数息觀をしてもらいたい。これがわしの頼みじゃ。」

記録者の稲瀬光常居士（現金峰庵老師）は、現代社会随一の努力人である老師のお言葉を涙なしには聞くことができなかったと書いております。（『合掌』第96号）

「坐禅は、数息觀がすべてだ。」（『人間禅五十年史』「澄徹庵老師の思い出」）

合掌 編集子

禅32号（通巻212号） 定価500円（税込）

平成22年11月25日発行

編集人 中 村 孝
 発行人 佐 瀬 長 和

発行人 人間禅出版部

〒272-0827 千葉県市川市国府台6-1-16

人間禅本部道場内

ファックス 047-373-7561

Eメール zenshi@ningenzen.org

ホームページ <http://www.ningenzen.org>